

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成25年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	東京農工大学	申請大学長名	松永 是
申請類型	複合領域型（環境）	プログラム責任者名	國見 裕久
整理番号	H01	プログラムコーディネーター名	千葉 一裕
プログラム名	グリーン・クリーン食料生産を支える実践科学リーディング大学院の創設		

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

本学では、博士人材に対する社会の強いニーズに応える実践科学リーディング大学院を創設し、生命の源である「食」に関する地球規模での究極的な課題に挑戦し、食の生産性やエネルギー依存形態を変革する構想力と「実践力」を備えた国際的なリーダーを養成することを目標とし、「プラクティカルサイエンス（実践科学）学位プログラム」を導入し、以下の人材養成の目標を達成すべく体系的に教育を行う。

- ・ 高度な実践型研究人材として、食料、環境、エネルギーの相互不可分の関係を理解し、人類生存の究極課題に熱意を持って挑戦できる。
- ・ 複合領域に跨がる広い専門分野の人材を統率してチームを作り、コミュニケーション力をもって国際社会で活躍できる。
- ・ 目標実現に向かって自らの洞察力で見出した課題について、強い意志で挑戦・実行・完遂できる。

本プログラムは全学的な大学院教育改革構想に基づき、全学的な融合領域としての大学院新専攻（実践科学専攻）を、生物システム応用科学府（BASE）を責任部局として設置し、新専攻の設置に伴う教育研究スペース、施設等を大学の責任の下で完備させる。また、海外機関との連携教育、海外大学からの学生の招聘、支援スタッフの雇用等について、大学独自予算により実施する。

当該専攻の教育は、国内外から第一線の教員を招聘すると共に、全学から厳正な審査によって選出された、教育理念を共有する意欲的な教員が参加し、全学の大学院研究科に当該リーダー養成プログラムを波及させる

## 2. プログラムの進捗状況

平成25年度は、プログラム開発及び実施・運用期間であり、

- ①博士課程リーディングプログラムの実施に向けた学内の事務体制整備やWebサイトの構築、
  - ②教育研究推進のための基盤整備（実験機器等の整備含む）
  - ③平成25年度4月からの教育プログラムの学生募集を行い、プログラム開始に向け、学生受け入れ体制を整えた。
- これらの内容を以下に記載する。

### ①博士課程リーディングプログラムの実施に向けた学内の事務体制整備

- ・ プログラムの円滑な実施に向けて、全学的見地から必要な事項を検討・審議するため、大学戦略本部の下にリーディングプログラムタスクフォース（以下、「TF」という）を設置し、新専攻設置のための組織改組案検討、教育課程の実施方法・内容検討、本プログラム運営のための運営規程案作成及び学位規程・学則等の改正、プログラム学生公募の実施体制等の検討を行った。
- ・ 本プログラムのホームページを作成した。

### ②教育研究推進のための基盤整備

- ・ 本プログラムの授業科目について、TFの下にカリキュラムワーキンググループ（以下、「カリキュラムWG」という）を設置して検討・構築した。
- ・ 連携機関である上智大学地球環境学研究科と本学各学府とで単位互換協定を締結し、上智大学の開講科目を本プログラムの科目として単位を認定する形を整えた。
- ・ プログラム学生が使用する電子ジャーナルや、セミナー室を整えた。さらに実験機器等を整え、実験等を行うスペースを整えた。
- ・ 国内外連携機関を招待して、本プログラムのキックオフシンポジウムを開催した。
- ・ その他国内外連携機関との打ち合わせ・訪問により、次年度から開始の教育プログラムについての連携・協力実施内容を検討し、ワークショップや研修を企画した。
- ・ 企業との連携・協力のためのコーディネーターを雇用し、本プログラムの広報・紹介を行い、具体的な教育プログラム内容（企業インターンシップ等）の検討や、あるいは新規の連携・協力企業との関係構築を図った。
- ・ 授業科目（人文系科目）を担当する教員を雇用し、プログラム独自科目としての人文系科目を新設した。

### ③教育プログラムの学生募集・学生受け入れ体制

- ・ 平成25年度4月からのプログラム学生の募集を行い、書面審査及び面接審査（外部委員含む）を経て、20名の学生を採用した。現在（2013.3.31）平成26年度を行っている。
- ・ 学生への奨励金支給のための規程を整備した。
- ・ 教育プログラム運営のための規程及び教育要項を作成中である。

学位規程・学則への本プログラムの追記・修正を加えた。